

4-6

主題 □からおいしく食べるってすばらしい！

食事

副題 特養での経口摂取を安全に続けるための取り組み

おいしい

研究期間 24ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム フェローホームズ

発表者：浅見 恵美（あさみ えみ）

アドバイザー：森田 憲英（もりた のりひで）

共同研究者：関口 香織 関根 宏美 松田 弥生 小林 恵子

電 話 042-523-7601

メール info@fellow-homes.or.jp

FAX 042-523-7605

URL <http://www.fellow-homes.or.jp>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

立川市で平成4年に従来型の特養を開設。昭和記念公園の南側に位置し、緑あふれる環境です。立川駅からは徒歩圏内と都内からのアクセスにも優れ、入所ご家族の面会も多く得られています。『ひとつは全てのために、全ては一つのために』という法人理念の下、個々の専門性を発揮し、チームケアを心がけ、多職種協働にて利用者により良い生活を提供しています。

《研究前の状況と課題》

特養における重度化は、フェローホームズにもおしよせてきた。新規入所者のほとんどが要介護4・5の方ばかりで、施設で生活をしている利用者也、レベルの低下が見られた。特に、嚥下機能の低下が著名に見られ、それまでの食事環境では食事が楽しい以前に、安全であるということすら厳しい状況にあった。入院をしてしまった利用者が経管栄養になって施設に帰ってくるということも多くあった。そのような状況下でどうにかして、施設をより生活の場に近くできないかということ現場スタッフや栄養士、看護師等施設全体が考え始めた。食事委員会を中心に、利用者が施設での生活を豊かにするためにはということを考え始めた。多々ある環境面の課題を一つ一つクリアしていくことが課題となった。

《研究の目標と期待する成果》

各方面からの検討を始めた。生活、医療、栄養、機能等々。様々な専門職が各々の専門性を発揮し、利用者が安全でおいしく口から摂取できるようにしたいと考えた。

生活…食事に関わる全ての環境、そして食事介助等のスキル

医療…口腔衛生等医療面全般、万一窒息事故等が起きた際の緊急対応

栄養…食べ物を食べやすく、おいしい形状『ソフト食』への取り組み

機能…嚥下体操や口腔マッサージ、ポジショニング等機能面全般

これらを行うことにより、入所している利用者に施設での豊かな生活を継続していくとともに、今後入所してくる利用者へも安全で楽しい食事を提供し、口から食べる喜びを感じていただくことを目標とした。

《具体的な取り組みの内容》

食事委員会を中心に検討する。委員会参加メンバーは各フロアケアワーカー・管理栄養士・看護師・調理員・施設事業課長にて構成。月1回の定例会以外にも担当がちょっとした時間に集まり課題点を確認。各々の専門性を活かし疑問点を確認する。

栄養係としては、ソフト食の導入に取り組む。研修に参加し、試行錯誤を繰り返し、試食を重ね一つ一つソフト食への移行を行う。現在ではほとんどのものをソフト食対応としている

医務係としては、口腔衛生の徹底を図るためにケアワーカーに対し指導、助言を行う。また、緊急時の対応は先頭を切って対応し、ケアワーカーへの指導、助言を行う。

機能訓練としては、理学療法士の指導の下、少しでも自力摂取できるように自助具の検討やポジショニングの指導、助言を行う。また、口腔マッサージの実施や体操の取り入れも行う。

生活面としては、全ての環境を把握し、より安全で楽しい食事環境を作り上げる。

実際の事例を発表する。

《取り組みの結果と評価》

食事は利用者の生活の一部であり、楽しみの大きな部分を占めている。安全を確保し、楽しい食事をするのが残された人生の豊かさを得ることのひとつになる。第三者評価等で確認できるが、安全を確保し、様々な取り組みを行うことにより、利用者の食事に対する満足度が確実に上がっている。利用者のご家族との交流も開始することにより、ご家族の満足や調理スタッフの満足を得られる。また、現場ケアワーカーの意識も、ひとつの事例を基に結果が得られることを満足につなげることができる。

生活している利用者の、今後利用されるだろう利用者の豊かな生活のために…という目標に向かいチームとして取り組めたことが大きな結果を生むことにつながったのだと感じる。

《まとめ》

食事面から他面へ

生活は何も食事面だけでない。施設で生活するうえで何が必要であり重要かを考えていきたい。夢を持ったその人らしい生活を過ごせるよう法人理念の下にケアしていきたい。

《参考文献》

特になし

《提案と発信》

特養の専門性

高齢者が豊かに生活するために特養は存在しています。今回のケースにあるように、様々な専門職が高い専門性を発揮することにより、高齢者の生活は豊かになるのです。残念ながら在宅で生活できなくなった高齢者を高い意識を持ったプロ集団で支えていきたいと思っています。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。